



Title	”犬の遠吠え”二声三声：戌どし新春随想
Author(s)	安田，一男
Citation	大阪公衆衛生. 1982, 45, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84006
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「犬の遠吠え」二声三声

戌とし新春随想



安田 一 男

(大阪公衆衛生協会理事)

「犬の遠吠え」二声三声

ひんがしの あめつち開く 国ちから
力は伸びて 年明けにけり

新しい年を迎える度ごとに、この「名歌」を口ずさむ。しかしこの犬としは、内外とも激動の多事多端、まさに天下大乱の形相をはらむともいわれる。私もとし男のハシクレだが、お互いまず予防、健康第一、事故無縁とまいりたい。ちなみにミズノエイヌ壬戌^{ジュツ}の壬は妊に通じ、陰極まりて陽生し、万物懷妊の義とか、戌は草木老熟し、一陽その中に残る相、また収獲物充満の倉に、カンヌキをかけ、武器もてこれを守る意とも…こうしたユニークな縁起を、こよなき縁喜に転化させたいものである。

さて今、国会で慎重審議中の、57新年度才出予算案の中で、「タチサキよい突出」で意気上がる防衛関係費に圧倒されて、とみにかけうすれたと憂えられる社会保障関係費の、内訳をのぞいてみると

57年度概算額	対前年度伸び率
◎社会保障関係費	9兆848億円 2.8%
1 社会保険費	5兆5169億円 -0.7
2 保健衛生費	4254億円 3.4
3 社会福祉	1兆7199億円 15.0
4 生活保護	1兆456億円 5.4
5 失業対策	376億円 -1.4
◎防衛関係費	2兆5861億円 7.8%

となり、今に始まったことではないけれども、わが保健衛生費は、社会保険費の実に、1割

以下といった情ないウエイト！せめてその伸び率が、前者の3.4%に対し、後者の-0.7%と、アベコベになっているのが、ささやかな救いともいえようか。これでも国のレベルにおいては、徐々ながら是正の方向に進んでいるとはいわれながらも、公衆衛生関係予算は医療保健等に比し、まだまだ相当大きなハンディキャップに喘いでいるわけである。

これを府のレベルにおろして眺めても、大同小異の嘆きは久しく長い。「本番」のデータは紙面の制約もあり、残念ながら割愛せざるを得ないが…早い話、かの府成人病予防協会と、わが協会の現状、実績とくに予算のスケールを対比すれば、思い半ばに過ぎるものがある。念のために申し添えるが、私は成人病予防協会の台所の豪勢さに対して、ユメユメやっかみケチをつけるつもりはなく、むしろこれはこれで実にたのもしく立派なもので、府民のため多々益々弁じた方がよいとさえ考える。ただ当協会否、下には下があり、さらにさらに惨めなのが精神衛生協議会であり、たとえばその予算の如き「セイジン協」と「セイシン協」のそれはまさに月とスッポンもよいところ、後者はその窮伏目をおおわしめるものがある。

ところで当協会も誕生以来、すでに4世紀を過ぎ、高度経済成長時代から、安定成長期に処してきたわけだが、その間ずーっと引続き梶原会長「君臨」のもと役員等関係各位の涙ぐましい奮闘により、地味ながら細く長く「堅実」な歩みを重ね続けられたわけである。あらためて皆様方に衷心から敬意を表したい。

ここであつかましい次第だが望蜀の註文を1つ2つ述べて編集子に対する責をふさぎたい。
1. たとえばあの武見日医会長でさえも…といったは語へいもあろうが、これからは医療—公衆衛生の mental side をいくら重視しても、過ぎることはない、当然ながら機会あるごとに強調、警告するにいたっている。

当協会もこのところ精神衛生面に向って、その「守備範囲」をひろげ、シフトしつつあるが、21世紀を指向し、関係方面とタイアップし、さらに活発に、積極的にこの方向へ進撃していただきたい。

広義の *mental health* もまだまだこれから…まさに前途洋々といえようが、精神衛生法施行後はや1/2世紀に近い今日、狭義の精神衛生面における、医療界と公衆衛生部門との、より密着した連携プレイを念願するや切なるものがある。

2. 公衆衛生—医療面と障害福祉活動とのドッキング。

これについては、昨年の「I.Y.D.P」から start して、とみにムードは盛り上がりつつあるといわれるが、地域に立脚した医療福祉活動へ整備充実が強く要請されている。なかんずく障害福祉の面でも「somatic」に比し跛行的にオクレをとっている精神障害群を中心にすえた、建設的諸対策が渴望されているといえよう。とかく今までは障害福祉と障害医療（もとより衛生面もヒトゴトではなく、物凄く立ち遅れた部門でますます大きく、医界の関心と責任が問われつつあるといえる）が、バラバラでセクト主義の泥沼に喘いでいる。そしてこれがお互いの不利—何よりも府民一般こ

とに障害府民にとってのこよなき不幸であった。

以上ふだん考えていることの、ホンの一端に触れたただけだが、「斯界の良心—希望」と目される当協会を思う一念の発露とご賢察願ひ粗辞意を尽さず、数々非礼の点はどうか、お許し願ひたいと存じます。

なお昨春図らずも、関係皆様方のご懇情により、有難い「相伴受勲」の栄に浴し、多方面から身に余るお祝いをいただきました。時節柄でもあり、私の勝手な流儀から、恒例祝される祝賀の集いを辞し、そのまま当協会へご寄付申し上げました。少額ながら、たとえば会員の研修奨学資金の一端として末永く？ご活用いただく等適宜お扱い下さればと、念じております。

カタツムリそろそろ登れ富士の山
といった一茶の句よろしく「スネールファン
ド」設定等も一案として如何でしょうか？ともあれ私といたしましては、一寸の虫にも5分のタマシイではありませんが、「寸者の一燈」として及ばずながら道を開き、できれば気ながにみて後援続く仁があれば、幸これに過ぎるものではありません。わがままばかりで申訳ありませんが、何卒万事よろしく……。

☆ お知らせ ☆

安田一男先生には、永年の地方行政及び公衆衛生に関する幾多の御功績により、昭和56年春、勲三等瑞宝賞受賞の栄誉に浴せられました。心からお喜び申し上げます。

先生は、永年に渡り保健所長、衛生部課長、衛生部長として、府民の公衆衛生の向上に尽瘁せられ、更に精薄児施設「金剛コロニー」の理事長として御活躍いただきました。又、当協会理事として数々の御助言、御教示をいただき、感謝の他はありません。尚この度の御受賞にさいして、当協会に対し、金百万円の御寄贈をいただきました。会員の皆様にお知らせ申し上げるとともに、先生の御趣旨に添うよう努力したいと考えております。

先生の御健勝と御活躍を念じつつ、併せて深甚の敬意と感謝の意を表したいと思います。

常務理事 事業部長 八 木 明

